

令和元年6月27日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K16579

研究課題名(和文) 湾岸アラブ諸国の勃興による現代アラビア語の変容と国際化

研究課題名(英文) Growth and Internationalization of Modern Arabic with special Reference to the Rise of the Arab Gulf States

研究代表者

竹田 敏之 (Takeda, Toshiyuki)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・特任准教授

研究者番号：40588894

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、湾岸諸国における現代アラビア語の使用実態の分析と、出版・メディアの国際的展開を明らかにすることを目指した。研究計画に基づき、新聞・雑誌、衛星放送、インターネット(SNSなど)を対象とした新語の収集・分析と、同地域におけるアラビア語研究の動向および学術ネットワークに関する臨地調査を行った。その結果、湾岸イニシアチブによる大型プロジェクト(辞書編纂、メディアアラビア語の規範整備など)の進展、方言と国民アイデンティティの関係、および湾岸語彙の形態的特徴と表記の傾向などが明らかになった。また、収集した用例・語彙データを教材制作に反映させ、中東地域研究のためのアラビア語教科書を完成させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって得た湾岸諸国におけるアラビア語研究の最新動向、および言語使用(メディア用法、新語・若者ことば)の実態に関する考察結果と用例データは、学会発表や論考等を通じて公表し、さらに大学院レベルの語学教育と教材開発に活用した。その成果の一つが中東地域研究のためのアラビア語教科書である。アラブ・イスラーム世界を対象とした地域研究において、中・上級のアラビア語教材が極めて不足している状況を考えると、その空白を補ったという点で学術的意義があるものと評価できる。本研究の成果が日本のアラビア語教育と地域研究に新たな視座を提示し、湾岸諸国との交流の発展の一助となることが期待される。

研究成果の概要(英文)：This project aimed to analyze the actual usage of modern Arabic in the Arab Gulf States and to clarify the international influence of their publications and print-media. Based on the research plan, newly-coined words were collected from newspapers, magazines, satellite broadcasting in the Gulf countries and the Internet (SNS). And fieldwork was conducted to grasp the latest trends in Arabic studies in the region. As a result, the development of large-scale projects (for example compilation of Arabic dictionary and adjustment of norms of media Arabic etc.) by the Gulf Initiative were indicated and also the relationship between dialect and national identity in the Gulf States and the tendency of morphological characteristics and spelling rules of Gulf Arabic were clarified. As the research results, the collected examples and vocabulary data were reflected in the production of Arabic teaching materials and Arabic textbook for Middle Eastern studies was published.

研究分野：地域研究

キーワード：アラビア語 新語 若者ことば メディア 伝統文化 クルアーン ラスム学

1. 研究開始当初の背景

アラビア語は現在 22 ヶ国に及ぶアラブ諸国の公用語として中東・北アフリカを中心とする広い地域で用いられている。その地域は、おもにエジプトやシリア・レバノンを中心とする東アラブ地域とモロッコやモーリタニアなどの西アラブ地域、さらにアラビア半島に位置するサウジアラビアやクウェートなどの GCC (湾岸協力会議) 諸国 6 か国から形成される湾岸地域に分類される。

報告者は先行研究として、アラブ地域がオスマン朝解体の後に国民国家として編成される過程で、20 世紀中葉を中心にアラビア語が大きく民族語化していく流れを、エジプトやシリア・レバノンなどの東アラブ地域 (マシュリク諸国) を対象にその歴史的背景となる政治社会の変容を跡付けながら明らかにした。民族語としてのアラビア語は、アラブナショナリズムの高揚や印刷メディアの発達、学校教育の普及、専門用語の整備などを経て、時代の要請に対応する「現代アラビア語」として成立し、今なお国際化の流れの中で発展を続けている。

一方、湾岸諸国については、アラビア半島に顕著な系譜的・血統的「アラブ性」への強いこだわりなど、文化的な「アラブ性」を基盤とする他のアラブ諸国とは異なる特徴が観察されるが、近年の著しい経済発展と国際化政策が、地域の伝統や言語社会にどのような影響を与えているのか、現代アラビア語の変容と関わるこの重要な課題についてはいまだ不明な点が多く、実証的な検証を必要とする。

また同地域の発展は、カタルの衛星放送局「アルジャズィーラ」や、サウジアラビアの出版社で湾岸諸国全域に展開する大型書店「ジャリール」に代表される新参のアラビア語メディアを急成長させ、かつてはエジプトやレバノンが中心であったアラブ諸国の出版・メディアの構図とパワーバランスを大きく変えようとしている。さらに地域内から世界へと、湾岸諸国が国際的イニシアチブをとるアラビア語・イスラーム研究に関する学術機関・研究所が相次いで設立され、アラブ諸国のみならずイスラーム諸国を牽引する巨大プロジェクトを始動させている。湾岸諸国の勃興が、アラブ・イスラーム世界における知的共通語としてのアラビア語の国際的広がりにはいかなる影響を与えているのか、この重要な現代的問いについても、十分な調査・検証がなされなければならない。

さらに、湾岸諸国は日本との関係においても、経済のみならず文化・学術交流の面で今後さらに強化されるべき地域として注目されている。同地域の言語社会の実態を明らかにすることで、その成果を日本におけるアラビア語教育へ応用し、さらに中東地域研究の発展に寄与する研究となることを目指す。

2. 研究の目的

本研究の目的は、湾岸アラブ諸国における現代アラビア語の使用実態を解析し、教育・出版の国際的展開を明らかにすることにある。同諸国は潤沢なオイルマネーによって飛躍的な経済発展を遂げ、急速な社会変化による言語・文化の変容を経験している最中にあり、現代アラビア語にとってきわめて重要なフィールドとなっている。具体的には、次の 3 つに着目して研究を進める。

- (1) 現代アラビア語の新語生成とその使用実態を、湾岸諸国の新聞・雑誌および衛星放送、インターネット・ソーシャルメディア (SNS) における用例の収集・分析から明らかにする。
- (2) 湾岸諸国におけるアラビア語研究の最新動向を明らかにし、エジプトなどをモデルにして構築された従来の「ダイグロシア論」、すなわち口語 / 方言と文語 / 標準語の併用論について再考する。
- (3) 湾岸諸国における教育・出版メディアの国際化と学術ネットワークの展開について明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、湾岸諸国における言語使用の実態解明およびアラビア語研究の動向調査を目的とした臨地調査 (フィールドワーク) と、言語データの解析による用例の抽出作業を主軸とした調査・研究を進める。

より具体的には、以下の事項を研究計画として設定する。

- (1) 新聞・雑誌および現地の広告、看板を対象に、クウェート、アラブ首長国連邦、カタル、サウジアラビアなど国別に収集し、新語のほか、外来語や現地に特化したローカル表現 (方言) の使用実態を明らかにする。その際、漫画・風刺画などのセリフで使用される文字化された口語表現にも注目する。湾岸における現代アラビア語は、域内で均一化 (「湾岸アラビア語」の形成) の方向に向かっているのか、あるいはローカル化による地域差の拡大やナショナル的要素の強調が生じているのか、変容の実態を実証的に明らかにする。

(2) 湾岸諸国におけるアラビア語研究の動向を近年の方言研究の隆盛に焦点を当てながら明らかにする。同地域では急速な経済・社会発展により生活様式に大きな変化が観察されるが、一方で伝統・文化遺産を失ってはならないとして、近年、オーラルヒストリーのアーカイブ化や方言語彙の記録に国を挙げて取り組んでいる。こうした傾向は、他のアラブ諸国では口語(方言)を「乱れたことば」とみなす傾向が強いのは対照的である。この規範意識の違いにも着目しながら方言資料・文献を収集し分析することで、湾岸諸国におけるダイグロシア論(口語と文語の社会的あるいは個人内での併用・使い分け)について考察を進める。

(3) 湾岸諸国における出版・校訂の現代的発展と湾岸発信型のアラブ・イスラーム学の広がりについて、ラスム学(聖典クルアーンの綴字法に関わる学問)を事例に、関連する書籍・出版の動向とその教育の担い手に関する調査を行う。その際にシンキーティー知識人(モータニアを出自とする学者[ウラマー])の湾岸諸国における知的活動とその役割・貢献に注目する。また、湾岸発信型の出版・学知の国際化について、マグリブ諸国(西方アラブ地域)の国際ブックフェアを対象に湾岸系書籍の流通と学術ネットワークについて臨地調査を実施する。

(4) 研究期間を通じて集積した言語データの解析から、新語および湾岸地域に特徴的な表現と例文を抽出し、アラビア語教材の制作に応用する。その際に、外来語表記、新語生成の形態的特徴、湾岸諸国内での地域偏差または均一化の傾向といった視点から検討を行う。最終的にこれらの分析・検証の成果を、報告者が開発を進めてきた大学院生向けのアラビア語教科書の内容と全体の構成の編纂作業に反映し、新たな教材開発および上級者向けの文法教科書へと発展させる。さらにこれらの教科書に対応した教師用ガイドとして、本研究の用例を豊富に取り入れたアラビア語文法レファレンスの刊行を目指す。

4. 研究成果

本研究では、おもに次の研究活動を進め、臨地調査と言語データ(語彙・用例)の収集・分析から、以下の事項を明らかにした。

(1) カタル文化省およびバハレーン国際ブックフェアを対象に、湾岸諸国における出版状況とアラビア語研究の最新動向に関する臨地調査を実施した。特に方言学および伝統文化・フォークロアに関連する書籍・定期刊行物・辞書類の収集を行い、湾岸アラビア語の地域偏差と均一性に関する考察のための分析資料とした。調査で入手した文献資料を対象に、「鷹狩」「真珠採取」「造船業」に関連した語彙・専門用語の比較分析(域内・各国間)と湾岸アラビア語に関するデータ構築の基礎的作業を進めた。

(2) 湾岸諸国における現代アラビア語の変容について、本研究の成果として、現代アラビア語の休止形とその教授法の可能性、湾岸諸国におけるメディアアラビア語と新語・若者ことば、クウェートにおける伝統文化と詩文化の興隆、という3課題について学会および研究会で発表を行い、一部を論文にまとめ公表した。またアラビア語研究における「湾岸求心力」の展開について、特にカタルがイニシアチブをとる「アラビア語大辞典」の編纂プロジェクト(2013年始動)および「アルジャズィーラ」におけるメディアアラビア語の規範整備を取り上げ、エジプト・レバノンから湾岸地域へと力的バランスが推移しつつある出版メディアおよびアラブ学術ネットワークの実態を明らかにした。

(3) モロッコ(カサブランカ)の国際ブックフェアを対象に、湾岸出版の影響とその国際化の流れに関する臨地調査を行った。資料収集と聞き取り調査の結果として、ラスム学に関する研究、校訂・出版が近年マグリブ諸国(西方アラブ地域)で非常に盛んになっていることと、その出版の需要が湾岸諸国で増加していることが明らかになった。さらに、湾岸で活躍するシンキーティー知識人が、ラスム学の校訂や要綱・解説の生産に貢献している点について、アラブ首長国連邦・シャルジャ文化情報庁のムハンマド・アミン氏(研究出版部門)による知見の提供と協力を得ながら、研究動向の把握と関連書籍および論文・資料の収集および考察を進めた。そして同課題に「ラスム学の学派形成と現代アラビア語へのその影響」という視点を加え発展させ、その研究成果の一部を学会の年次大会等で発表した。特にマグリブ・アンダルス学派がサウディアラビア王立印刷所によるクルアーン刊本(ムスハフ)の綴字法(母音記号の打ち方などを含む)の規範に大きな影響を与えていることを指摘し、その諸規則が現代アラビア語にも反映されていることを明らかにした。本成果については雑誌論文および図書(原稿提出済み)として公開する。

(4) 地域研究のためのアラビア語教材開発について、共著者と討議を重ね編集作業を進めた。上記(1)で入手した現地資料と湾岸系語彙の抽出作業を活用する形で、既稿の「道具名詞」の章を増補し、さらに新たな学習項目として「マスダル・ミーミー」(ミームによる動名詞)、「ハイス」(関係副詞)、「5つの名詞群」、「複数の複数」、「ラー・スイヤマー」、「スイワー」

(除外詞)「イイヤー」(辞詞)と人称代名詞の対格分離形、「イズ」(辞詞)、「主題構文」(トピックセンテンス)の解説を執筆した。そして総括として、本研究を通じて収集した用例・語彙データを大学院向けの科書制作に反映させ、『中東地域研究のためのアラビア語：実践文法と用例』を刊行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

(1)「<書評>アブドゥルガニー・アブルアズム『ガニー・ザーヒル アラビア語辞典』(Mu'jam al-Ghani al-Zahir) ガニー出版 2013年 3589頁(+ intro.47頁, 図・写真54頁)」竹田敏之, 『イスラーム世界研究: Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies』京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター, 2018年3月, 第11巻, 397-404頁.

(2)「湾岸アラブ諸国における詩文化の興隆と国民アイデンティティの形成」竹田敏之, 『ワタン(祖国)とは何か: 中東現代文学における Watan/Homeland 表象(「現代中東の「ワタン(祖国)」的心性をめぐる表象文化の発展的研究」成果報告書) 研究代表: 岡真理』岡真理編, 2019年3月, 245-260頁.

〔学会発表〕(計12件)

(1)「モーリタニア学統の広域ネットワークとアラビア語学: シンキーティー知識人のマシュリクにおける貢献」竹田敏之, 日本中東学会第31回年次大会, 於同志社大学, 2015年5月17日.

(2)「モーリタニアの民族衣装『メラハファ』とイスラーム絵本」(「中東児童文学特集」), 竹田敏之(コメンテーター), 中東現代文学研究会(第15回例会), 於京都大学, 2016年1月10日.

(3)「湾岸アラブ諸国におけるプリントメディアの発展とアラビア語意識の変容」竹田敏之, 日本中東学会第32回年次大会, 於慶應義塾大学三田キャンパス, 2016年5月15日.

(4)「インターネット時代における湾岸メディアを通じた現代アラビア語の多様化とその展望」竹田敏之, 日本中東学会第33回年次大会, 於九州大学箱崎キャンパス, 2017年5月14日.

(5)「望ましいアラビア語教科書とは: 教授法の見地から」(企画セッション2)竹田敏之(コメンテーター), 日本中東学会第33回年次大会, 於九州大学箱崎キャンパス, 2017年5月14日.

(6)「モーリタニアにおけるアラビア語学の伝統とその現代的貢献」竹田敏之, 関西アラブ研究会第36回研究会, 於大阪大学箕面キャンパス, 2017年9月23日.

(7)「現代アラブ世界における出版文化の普及と言語変容 「標準語」論争と文字改革論を中心に」竹田敏之, 人間文化研究機構(NIHU)・現代中東地域研究・若手共同研究(研究課題名: アラブ世界における近代的メディアとイスラーム 「穏健派」を中心に) 第3回研究会, 於京都大学, 2018年1月21日.

(8)「現代アラブ世界におけるアラビア語教育の伝統: モーリタニアの文法学習を事例として」(企画セッション2「国内外でのアラビア語学習」)竹田敏之, 日本中東学会第34回年次大会, 於上智大学四谷キャンパス, 2018年5月12日.

(9)「現代アラビア語の休止形に関する伝統的規範と応用事例: 半島方言とクルアーン読誦流派を中心に」竹田敏之, 日本中東学会第34回年次大会, 於上智大学四谷キャンパス, 2018年5月12日.

(10)「湾岸アラブ諸国における詩文化の興隆と国民アイデンティティの形成(パネル5「ワタンの形成、ワタンの発見」)」竹田敏之, 中東現代文学研究会シンポジウム「ワタンとは何か - 現代中東におけるワタン(祖国)表象をめぐる」, 於東京大学, 2018年6月10日.

(11)「クルアーン正書法とラスム学の確立: マグリブ・アンダルス学派の形成を中心に」竹田敏之, 日本オリエント学会第60回大会, 於京都大学, 2018年10月14日.

(12)「湾岸メディアにおける現代アラビア語: 変容と標準化の過程」竹田敏之, 人間文化研究機構(NIHU)・現代中東地域研究・若手共同研究(研究課題名: アラブ世界における近代的メディアとイスラーム 「穏健派」を中心に) 第7回研究会, 於京都大学, 2018年11月3日.

〔図書〕(計3件)

(1)「出会い、そしてアラビア語」(「白水社の出版物でたどる語学書の歴史」)竹田敏之, 『白水社創立百周年記念冊子』白水社, 2015年4月, 61-63頁.

(2)「オマーンにおけるアラビア語 多言語社会とバラエティ豊かな方言の魅力」竹田敏之, 『オマーンを知るための55章』松尾昌樹編, 明石書店, 2018年2月, 229-234頁.

(3)『中東地域研究のためのアラビア語：実践文法と用例』小杉泰・岡本多平・竹田敏之・ハシャン・アンマール,京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻,京都大学イスラーム地域研究センター(KIAS), ハダーリー・イスラーム文明研究センター,2018年10月,303頁.

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。